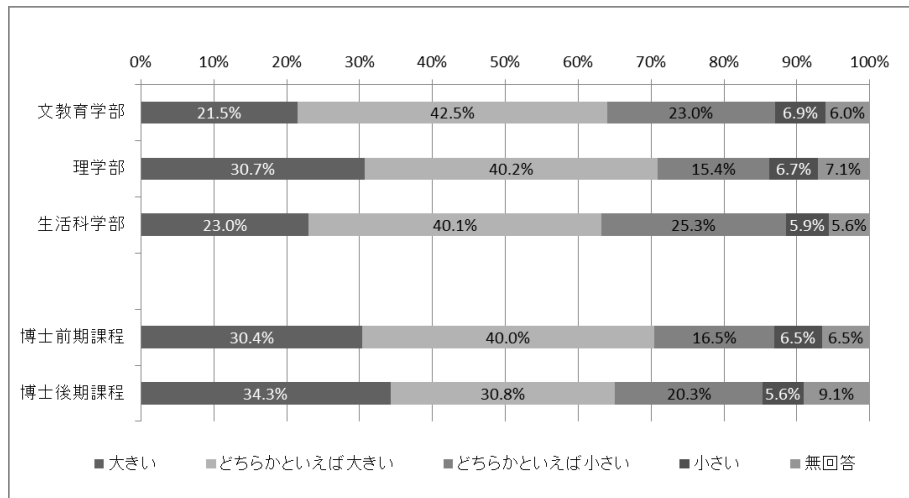


8 大学に対する考え方

1. 女子大学について

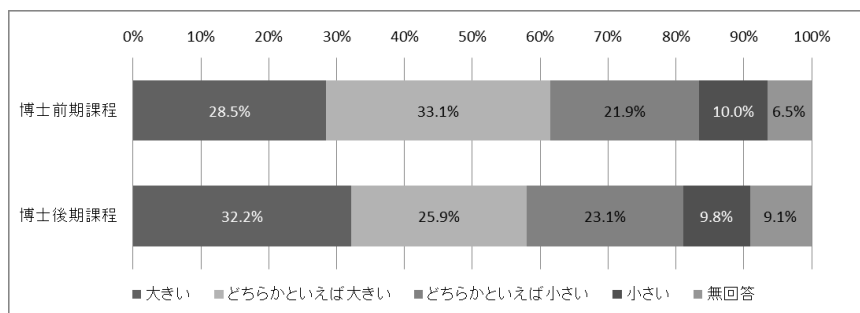
女子大学の存在意義について、過半数の学生がその意義が「大きい」あるいは「どちらかといえば大きい」と回答している。とくに理学部と大学院博士前期課程で7割が大きいと回答しており、その割合が高くなっている。また、博士後期課程の学生では「大きい」と回答した割合が34.3%と最も高い結果となった。

図表 8-1 女子大学の存在意義は大きいと思うか



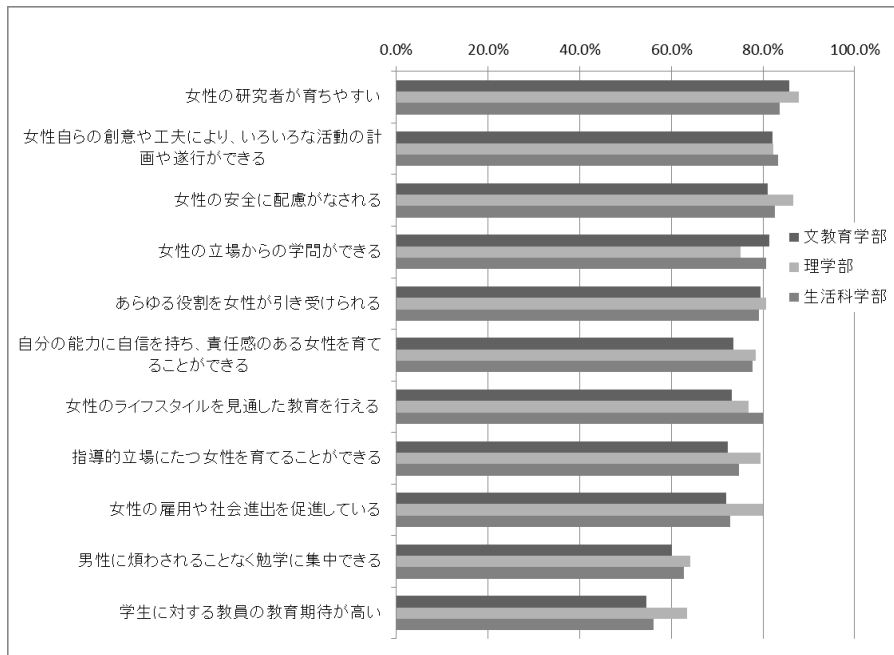
大学院生にのみ、女子のみが入学できる大学院の存在意義を尋ねたところ、これも6割が「大きい」または「どちらかといえば大きい」と回答した。

図表8-2 女子のみが入学できる大学院の存在意義(大学院)



女子大学についてのさまざまな意見が、お茶の水女子大学にあてはまるかどうかを尋ねたのが図表 8-3、4 である。いずれの項目についても過半数が「かなりあてはまる」または「あてはまる」と回答しているが、とくに「女性の研究者が育ちやすい」、「女性自らの創意や工夫により、いろいろな活動の計画や遂行ができる」、「女性の安全に配慮がなされる」、「女性の立場からの学問ができる」、「あらゆる役割を女性が引き受けられる」といった項目で8割程度が同意していた。以上の他、理学部で「指導的立場にたつ女性を育てることができる」、「女性の雇用や社会進出を促進している」に同意する割合がやはり8割と高くなっていた。

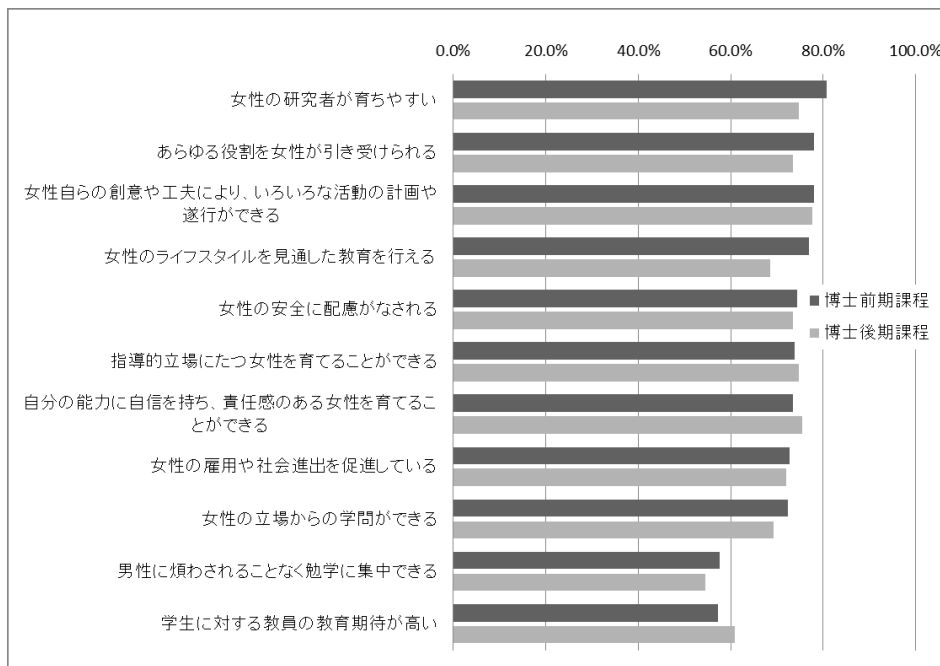
図表8-3 女子大学についての意見についてお茶大にあてはまるもの(学部)



注)「あてはまらない」および「まったくあてはまらない」、無回答の割合は省略し、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を足した割合を表示している。

大学院生もいずれの項目についても過半数が同意していたが、とくに「女性の研究者が育ちやすい」、「あらゆる役割を女性が引き受けられる」、「女性自らの創意や工夫により、いろいろな活動の計画や遂行ができる」に同意する割合が8割と高かった。これらに加え、博士前期課程の学生は「女性のライフスタイルを見通した教育を行える」に同意した割合が博士後期課程の学生に比べ高かった。

図表8-4 女子大学についての意見についてお茶大にあてはまるもの(大学院)



注)「あてはまらない」および「まったくあてはまらない」、無回答の割合は省略し、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を足した割合を表示している。

2. 大学での学び方

お茶の水女子大学の学生は大学での学び方について、どのように考えているだろうか。2007年に実施された全国大学生調査コンソーシアム／東京大学大学経営・政策研究センター「全国大学生調査」の結果と比較しながら見ていきたい。

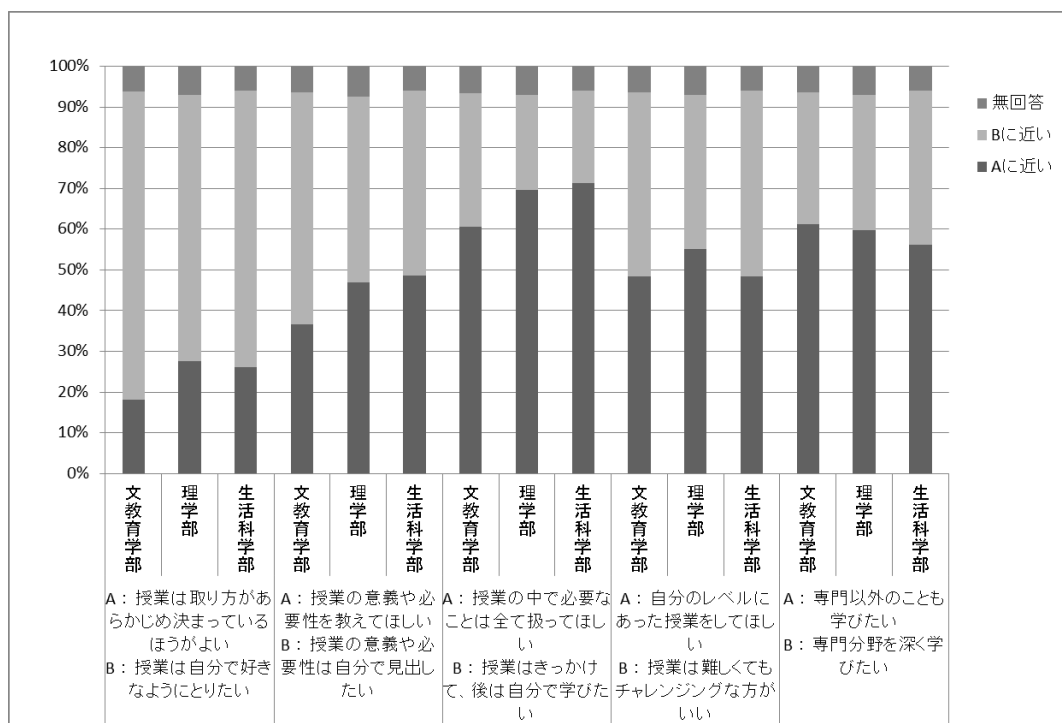
まず、「全国大学生調査」では「授業は取り方があらかじめ決まっているほうがよい」(27.6%)よりも「授業は自分で好きなように取りたい」(71.5%)を選んだ方が多かった。お茶の水女子大学の学生も同様で、とくに文教育学部と大学院でその傾向が強かった。

つぎに「全国大学生調査」では「授業の意義や必要性を教えてほしい」(61.0%)が「授業の意義や必要性は自分で見出したい」(38.2%)より多かったが、お茶の水女子大学では「授業の意義や必要性は自分で見出したい」と回答する者が半数近くおり、とくに文教育学部と大学院では過半数を超える結果となった。

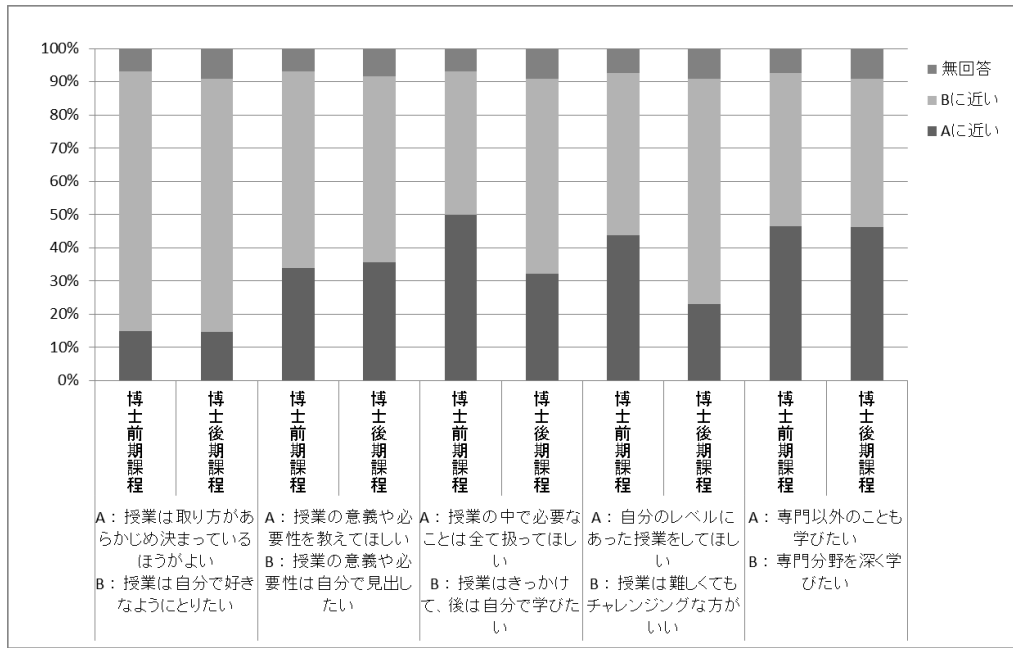
「全国大学生調査」では「授業の中で必要なことは全て扱ってほしい」(73.3%)が「授業はきっかけで、あとは自分で学びたい」(25.6%)を大きく上回ったが、お茶の水女子大学ではとくに文教育学部で「授業はきっかけで、あとは自分で学びたい」と考える学生が3割を超え、比較的高い割合となった。また、大学院博士前期課程では「授業はきっかけで、あとは自分で学びたい」と回答する者が4割、博士後期課程では6割おり過半数が自分で学びたいと考えている。

つぎに、「全国大学生調査」では「自分のレベルにあった授業をして欲しい」(64.6%)が「授業は難しくてもチャレンジングな方がいい」(34.4%)を上回ったが、お茶の水女子大学の文教育学部と生活科学部、大学院の学生の半数近くが「授業は難しくてもチャレンジングな方がいい」と回答した。とくに大学院博士課程の学生の6割が「授業は難しくてもチャレンジングな方がいい」と考えている。

図表 8-5 大学での学び方についての考え方(学部)



図表 8-6 大学での学び方についての考え方(大学院)

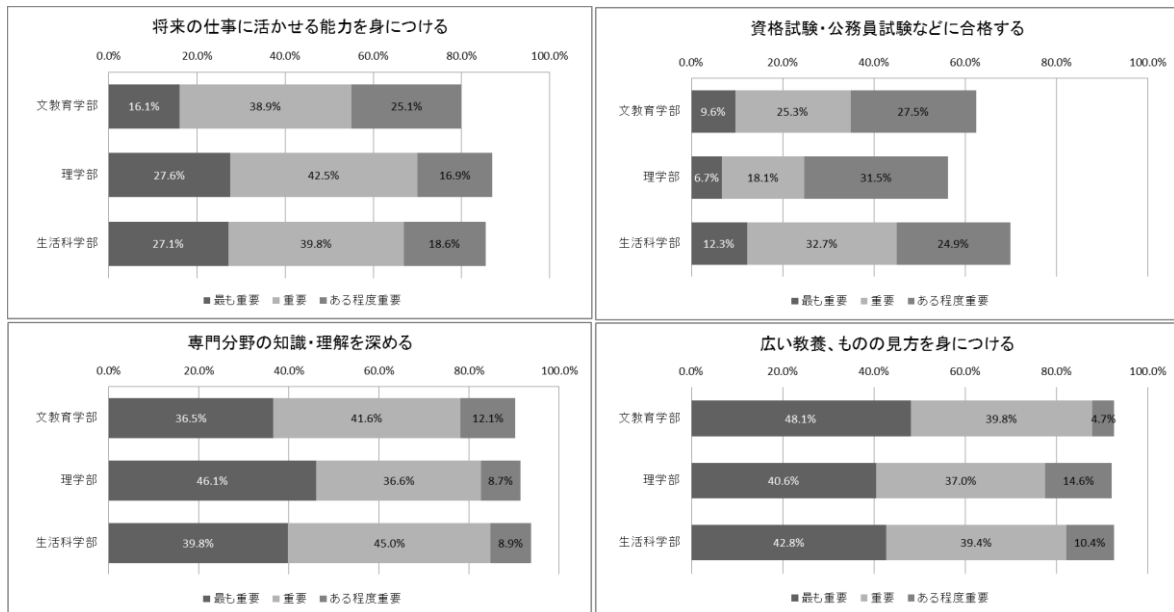


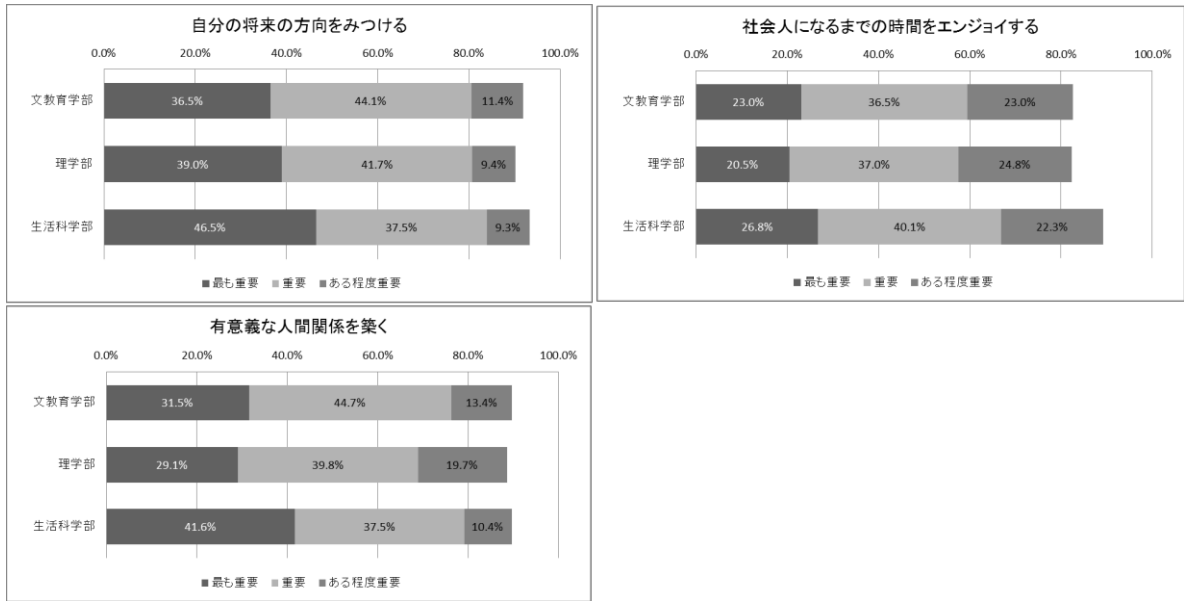
最後に、「全国大学生調査」では「専門以外のことも広く学びたい」(48.5%)と「専門分野を広く学びたい」(50.3%)が拮抗したが、お茶の水女子大学では「専門以外のことも広く学びたい」と回答する者が6割おり、差が大きかった。大学院に関しては「専門以外のことも広く学びたい」と回答する者も「専門分野を広く学びたい」と回答する者も同程度いる結果となった。

3. 大学在学中の目標

大学在学中に何を目標として大学生活を送っているだろうか。本項目も2007年に実施された全国大学生調査コンソーシアム/東京大学大学経営・政策研究センター「全国大学生調査」の結果と比較してみたい。

図表 8-7 大学在学中の目標(学部別)





注)「少し重要」、「重要でない」、「無回答」はグラフから省略。

まず「将来の仕事に活かせる能力を身につける」については「全国大学生調査」では9割が「最も重要」、「重要」、「ある程度重要」と回答していたが、お茶の水女子大学の学生ではその割合が若干、低めである。とくに文教育学部の学生では重要であると回答したのは8割のみであった。大学院生も博士前期課程で7割、博士後期課程で8割が重要であると回答した。

「資格試験・公務員試験などに合格する」については「全国大学生調査」では78.2%が「最も重要」、「重要」、「ある程度重要」と回答していたが、お茶の水女子大学ではその割合は低く、生活科学部で7割、文教育学部で6割強、理学部では6割弱が重要であると回答していた。大学院生ではさらに低く重要であると回答したのは4割であった。

「専門分野の知識・理解を深める」、「広い教養、ものの見方を身につける」については「全国大学生調査」と同様にお茶大の学生も9割以上が重要であると回答したが、「最も重要」の割合を見ると「全国大学生調査」よりも10%ポイント高い結果となった。大学院博士後期課程の学生ではやはり「専門分野の知識・理解を深める」を「最も重要」と回答する者の比率が過半数を超え突出していた。

「自分の将来の方向をみつける」、「社会人になるまでの時間をエンジョイする」、「有意義な人間関係を築く」については「全国大学生調査」と同様の傾向が見られ、それぞれ9割、8割、9割が重要であると回答した。大学院生では「社会人になるまでの時間をエンジョイする」ことが重要であると回答する割合が少なく、前期課程で6割、後期課程で4割であった。「有意義な人間関係を築く」についても大学院生でそれを重要だと回答する割合は比較的少なく、とくに博士後期課程の学生では8割未満であった。

図表 8-8 大学在学中の目標(大学院)

